



防災について

気温の変動が厳しいこの頃、当リサイクル通信をお読みの皆様におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。空気が乾燥し始める季節になり、火の取り扱いにはさらに注意が必要になります。

ここでふと思ったのですが、なぜ空気が乾燥すると火災が多くなるのか？という疑問です。一つには住宅を構成しているのが木材ということです。木は乾燥するので冬場は夏場に比べ燃えやすいということです。また、家庭に昔から比べ増えたのはプラスチック製品でしょう。基本的に石油から出来たものは防災対策がしていなければ燃えます。ナイロン製品（衣類やカーテンなど）もこれにあたります。こう考えると実は家庭内は火がつく物がいっぱいということです。そこに暖房（火種）ですから危険が常に隣り合わせにあるということです。特に室内で燃焼させるタイプの灯油ストーブ、高温になる電熱線のある電気ストーブは要注意です。石油類から出来ているものはそれぞれの属性にもよりますが、引火点というのがあり、ある温度を超えると発火します。

そこで火を出さない為の防災になります。会社でしたら工場内の火災報知器、スプリンクラー、消火器の設置が防災につながります。

最近では自治体ごとの対応になりますが、家庭に火災報知器の設置が義務化されたところもありますので、詳細はお住まいの自治体にご確認ください。また、これにつけこんだ詐欺事件も発生していますのでご注意ください。火災報知器はホームセンターでも売っていますのでご自分でも取り付けは可能です。簡単なものは電池式でドライバー1本あればOKです。ぜひDIYでやってみてください。煙感知と熱感知がありますので取り付け位置などは店員に相談してみてください。

防犯は確実に。

近頃非鉄金属の価格が暴騰しております。特に銅関係が上がり下がりの変動が激しく、当社の仕入れ担当者も価格設定に苦労しております。これだけ高くなると良くないことを考える者もでてきます。先日も地下ケーブルを盗難されるという事件がありました。中国では使用している電線を盗まれるという事件までありました。小耳にはさんだものですが、工事現場からドラムに巻いた新品の電線が盗まれたというのもありました。皆様におかれましてはスクラップといえども外から見える位置にむき出しで置いておかないようご注意ください。フェンスの外から吊り上げてということも考えられます。

それ以外にも、トラックの盗難、重機の盗難は日常茶飯事的に聞こえてきますので防犯対策は確実に行いましょう。

アルミのお話し

今回はアルミのおはなしになります。

アルミの特徴としては、軽い、強い、加工性が良い、熱伝導率・電気伝導率が高い、などの点が上げられます。強いといっても純アルミニウムはやわらかくとても強いとはいえません。これに他の金属を添加したり、加工や熱処理をすることで強さを増すことが出来ます。なかでも特に強い（もちろん軽くなければいけません）アルミの代表が普通鋼（ハイテンション鋼まではさすがに今のところ追いつけません）に匹敵する強度を持つ超々ジュラルミンがあります。よく聞くこのジュラルミンとはいったいなんでしょう。

ジュラルミンと聞くと飛行機の外板に使うというイメージがありますが、そもそもジュラルミン（JISアルミ合金規格で2017）とは何かというと、アルミニウムに銅とマグネシウム、マンガンなどを少量混ぜた合金です。ドイツのデュレンでウィルムによって発見されました。このデュレンとアルミニウムの合成語がジュラルミンです。これを改良したものが超ジュラルミン（2024）そしてさらに改良（銅分を減らし亜鉛を数パーセント足す）したものが超々ジュラルミン（7075）と呼ばれるものになります。先ほど最後の機体が引退した戦後日本が唯一設計製造した航空機YS-11は総ジュラルミン製でした。零式艦上戦闘機（通称ゼロ戦）も超々ジュラルミンが使用されていました。

操法全国大会(ポンプ車の部)

この度、当社営業担当役員が所属する所沢市消防団第10分団(三ヶ島地区)が県大会優勝により、全国大会へとってまいります。この号がお手元に届く頃にはいかなる結果がでているでしょうか。頑張ってください。